

主 題：救世主の預言 1  
聖書箇所：創世記 3章15節

今朝は創世記3：15のみことばを見ます。このすばらしい神の勝利のメッセージを見ていきますが、その前に、主イエス・キリストが捕えられる前、ゲッセマネの園でどのようなやり取りが為されたのか？皆さんにそのことを思い出していただきたいのです。主イエス・キリストのもとに群衆が押し寄せて来ました。祭司長や宮の守衛長、長老たちに対して主は不思議なことを言われました。ルカ22：52b—53「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」、イエスは何を言われたのでしょうか？「暗やみの力」と、この「力」ということばは「権威、権力、影響力」を表わすことばです。実は、このギリシャ語と同じことばがパウロが書いたパウロ書簡の中のコロサイ書1：13に出て来ます。ここでは、日本語では違う訳がされています。「神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」「暗やみの圧制」となっています。同じギリシャ語です。口語訳聖書のルカ22：53の箇所はその意味を含んで「やみの支配のとき」と訳しています。ですから、イエスがゲッセマネの園で群衆に言われたことは「今はやみが支配しているときである」です。パウロも「暗やみの圧制、暗やみがすべてを支配している」と言ったのです。この世の中を暗やみが支配しているだけでなく、みことばが教えるのは、人間たちも同じように暗やみによって支配されていると教えるのです。

では、私たちはその「暗やみ」とはだれなのか？と考えます。この世界を支配し、人間を支配している「暗やみ」とはだれのことなのか？パウロがそのことについてヒントを与えてくれています。エペソ人への手紙6：12に「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」「この暗やみの世界の支配者たち、」とあります。間違いなく、ここで言われているのは「悪霊たち」のことです。「暗やみの世界の支配者」、それらを支配している「悪霊たち」はリーダーであるサタンに従っています。そうすると、先ほどから見ている「暗やみの力」「暗やみの圧制」「やみの支配」のときであるというのは、サタンによって支配されているということです。すべてのものを支配しているのはこの「サタン」だと言うのです。この世界も、そして、生まれながらの人間も…。

使徒の働き26：18では、すべての人間はサタンの支配下にあるということを教えています。「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあつて御国を受け継がせるためである。』」と、生まれながらの人間は例外なくサタンの支配下にあつた。救いはその支配下から解放されて神の支配下に招き入れられることだと言うのです。生まれて来たすべての人間はサタンの支配下にあり、サタンの子どもであるということが出来ます。というのは、確かに聖書がそのことを教えているからです。ヨハネ8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であつて、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」と、主イエス・キリストの救いを拒み続けている者たち、救われていない人たちに対してイエスはこのように言われたのです。彼らはサタンの子どもたちだと。もしかすると、皆さんの中には「そんなことは有り得ない」と思っている方がおられるかも知れません。でも、その証拠はいくらでもあります。

☆生まれながらの人間はすべてサタンの子どもである、その証拠：

1. 神を愛さない：創造主なる神を愛するよりも自分を愛し、自分が一番大切な存在として生まれそのように生きて来ました。
2. 神に感謝をしない：確かに、いろいろなことに感謝しますが、感謝の対象は、感謝を受けるべき神ではなくその他のものです。収穫を感謝するとき私たちはだれに感謝しますか？創造主なる神に対してです。生かされていることをだれに感謝するのか？いのちを与えてくださっている神に感謝すべきです。でも、私たちはそうでないものに感謝をしています。
3. 神に逆らう、神の敵である：神に喜ばれることを行なうのではなく、神が憎まれることを行なっています。神はご自身が聖い方ですから、神によって造られた私たちにもすべての点で「聖くありません」と要求されます。しかし、私たちはそんな命令を全く無視して、自分の人生だからと自分の好き

なように快樂のままに生きて来ました。また、生きています。

4. **神に不従順** : 神に従うことを拒み続けています。自分のしたいことを行なう者です。

5. **嘘をつく** : 真実を話しません。みことばが言う通り「嘘つき」、「嘘」はサタンの特徴です。

6. **神を信じることを拒む** : 私たちを造ってくださった創造主なる真の神を信じるのではなく、自分にとって都合のいい神を選びその神を信じようとしてこれまで生きて来ました。多くの人たちが手を合わせ崇拜している対象は崇拜に値しないものです。なぜなら、私たちを造られた神ではないからです。私たちにいのちを与え生かして下さっている神でもありません。こうして、聖書を通して、創造主なる神がいることを教えられても、私たちはその方を信じようとはしないのです。

こうして見ると、私たちは明らかに、神を愛する者ではなく、神の敵を喜ばせる歩みをしている者です。ですから、聖書はそのことを教えます。主イエスは私たちに言われるのです。生まれながらの人間はみな例外なくサタンの子どもである、自分の父親であるサタンを喜ばせる罪を重ねていると。

続けて、みことばを見ていく前に、皆さんにぜひ考えていただきたいことは、生まれながらの人間の父親であるサタン、いったい、彼は何をしようとしているのか？ということなのです。

### ☆サタンの野望

サタンが望んだことは何か？イザヤ書がそのことを教えています。14 : 12-14 「12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』」、サタンは創造主なる神に造られていながら、彼自身が「創造主なる神になること」、それが彼の野望です。彼はすべての被造物から称賛を受けることを望んだのです。すべての被造物が彼に従うことを望んだのです。

### ◎そのためにサタンが何をしているのか？

人間を二つのグループに分けることができます。神に従っている者たち、つまり、クリスチャンたちと、神にいまだに背を向けている未信者たちと、双方のグループに対してサタンは様々なことを行なっています。

#### 【罪人に対して】

##### 1. 罪人が福音を信じることを妨げる

ルカの福音書8章に「種蒔き」のことが書かれています。マタイ13章にも同じことが書かれています。四つのところに蒔かれた種のこと記されています。一つは「道ばた」、二つ目は「岩地」、三つ目は「いばらの中」、四つ目は「良い地」です。一つ目の「道ばた」に蒔かれた種に関してルカ8 : 12にはこのような説明がされています。「道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心から、みことばを持ち去ってしまうのです。」、みことばを聞いてもそれを受け入れようとしなないのは、サタンがみことばをその人から奪って行ってしまふからです。その人が信じるということがないようにと。サタンはこのようにまだ救われていない人たちに対して、もしかすると、この中にもそのような方がおられるかもしれませんが、その人たちが救いに与ることがないように妨げようとするのです。福音のすばらしさをあなたに輝かせようとしなないのです。救いのすばらしさをあなたに知ってもらいたくないのです。

ですから、Ⅱコリント4 : 4に「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」とある通りです。サタンはあなたが救いのメッセージを聞いても、それがどれ程すばらしいものかを悟ることがないようにと働くのです。あなたが救いに至ることがないように邪魔をし続けていると聖書は教えています。

##### 2. 罪人を自分の目的のために用いる

サタンは自分の目的を果たすために罪人を用いるのです。その最たるものがイスカリオテのユダです。ルカ22 : 3には「さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。」とあります。また、最後の晩餐のとき、ヨハネ13 : 27「彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」「サタンが…入った。」とは直接的なサタンの支配を受けるということです。サタンに取りつかれるということなのです。イエスを知らない人たち、イエスを信じないで救いをいただいていない人たち、もし、あなたがそのことを望むなら、サタンはこのような働きをします。恐ろしいことです。実際に、サタンはイスカリオテのユダに直接的に働き彼を支配し、サタンの目的のために彼を用いようとするのです。

##### 3. 罪人を支配している

先に見た、使徒26 : 18にそのことが記されていました。「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。』」と、救われるまではみなサタンによって支配されてい

ると言います。そのように聖書が私たちに教えています。

#### 4. 罪人を惑わし続ける

罪人が決してこのすばらしい救いに与ることがないようにと、あらゆる方法をもって邪魔するのです。サタンはあなたの幸せの事など全く考えません。サタンは自分は永遠の地獄に行くという自分の運命を知っているのだから、一人でも多くのものを道ずれにしようと惑わし続けているのです。救われていない人たちは目を覚まさないといけません。サタンに従っていくことがすばらしいかのように誘惑し続けるのです。しかし、彼が考えているのは、あなたを永遠の地獄へ道ずれにすることです。

##### 【信者に対して】

#### 1. 信者に試練を与える

ルカ 22 : 31 に「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。」、みことばが教えていることは、神はすべてのことをご存じであり、クリスチャンであるあなたを常に守ってくださる。しかし、サタンは神の前にこのような願いをもって出て行くのです。そして、神の許可のもとに試練が起こるのです。この箇所が私たちに教えることは、サタンはシモン、すなわち、ペテロたちが大変な試練にあることを願い、それが許可されたということです。信者にいろいろな試練を与えるのがサタンです。

#### 2. 信者に誘惑を与える

初代教会にアナニヤとサツピラというカップルがいました。彼らは神の前にいのちを奪われました。使徒 5 : 3 に「そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。」と書かれています。「どうしてあなたはサタンに心を奪われ」たのか？と。この後、彼も彼の妻もいのちを落としたことが書かれています。彼らはサタンの影響を受けたのです。そのような働きをサタンはするのです。I コリント 7 : 5 に「互いの権利を奪い取ってははいけません。ただし、祈りに専心するために、合意の上でしばらく離れていて、また再びいっしょになるといふのならかまいません。あなたがたが自制力を欠くとき、サタンの誘惑にかからないためです。」とも書かれています。

#### 3. 信者を欺く

様々な方法をもって信者を欺きます。II コリント 2 : 11 には「これは、私たちがサタンに欺かれないためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。」とあります。サタンが「欺く」とあります。同じ II コリント 11 : 14, 15 には「:14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。:15 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。」、サタンだけでなく悪霊たちも同じように聖い天使に変装すると言います。何のために？クリスチャンたちを惑わすためにです。あたかも、それが神から来ているかのように彼らは惑わすのです。

#### 4. 信者の邪魔をする

神の計画の遂行を邪魔するのです。I テサロニケ 2 : 18 に「それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一度ならず二度までも心を決めたのです。しかし、サタンが私たちに妨げました。」と、このような働きをするのです。

ですから、イエス・キリストを信じていない人たちに対しても、彼らが間違っても救いに至らないようにとサタンは働き続けるし、クリスチャンであるあなたが間違っても神の栄光を現わすことがないように、あなたが信仰において成長し、神のすばらしさを証するようなそんな信仰者にならないようにとサタンは働き続けているのです。

サタンの策略に対してロイド・ジョーンズ博士はこのように言います。「サタンの最大の野心は、人間を神から引き離し、その力が及ぶ限り、人間が神を礼拝し、神に従い、神の栄光を現わす生活を妨げることである。」と。未信者がこの救いに絶対に与らないように、救われたクリスチャンが神の栄光を現わす信仰者として成長していかないようにとありとあらゆる方法を講じて邪魔を為すと言います。

さて、今、私たちが見て来たのは、確かに、この今の世界も、そして、私たち生まれながらの人間もサタンの支配下にあること、そして、サタンは巧妙にすべての人々にその働きを継続しているということです。そこで、このような人間に対するサタンの働きはいつ始まったのか？そのことが記されているのが、実は、創世記の 3 章です。そこを見てください。

#### ☆このサタンの支配下にある

それはすべてエデンの園で始まりました。詳しい説明をするまでもありません。エデンの園にアダムとエバがいます。神がこの二人をそこに置かれました。彼らは神との交わりを楽しみすばらしい祝福の中にいました。その二人に対してサタンが誘惑を為すのです。3 : 1 をご覧いただくと「さて、神である

【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。…」と、覚えてください。

サタンが蛇を使ってこのような働きを為したということです。蛇はエバにこのようなことを言います。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」、エバは蛇に答えます。2-3節「:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と仰せになりました。」と。神が言われたことと、エバが神が言われたと違って蛇に言ったこととは違いました。

神は「それに触れてもいけない。」とは言われなかったし、神はそれを食べると「死ぬといけなから」とも言われなかった。神は「必ず死ぬ」と言われました。サタンは非常に巧妙に神のおことばの真実性を疑わせるようにと働きます。対処する一番良い方法は、しっかりと神のみことばを蓄えて、そのみことばでサタンの誘惑に立ち向かうことです。すると、サタンはこう言います。4節「そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」と。見事な嘘です。こうしてサタンは嘘をもって誘惑するのです。そこで5節「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」と、つまり、サタンは「神はあなたが考えているようなすばらしい方ではない。なぜなら、神は、この木の実をあなたが取って食べるならあなたが神のようになることを知っておられ、そうやって欲しくないから取って食べてはならないと言われた方ですよ。あなたの最善など考えていません。神が考えているのはご自分のことだけです。」と、こうしてエバを誘惑したのです。

そして、ご存じのように、彼女はその木の実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与え夫も食べたということが起こるのです。つまり、神によって造られた人類の最初の罪です。進化して来たということではありません。神がアダムとエバを人として造られた。その最初の人類が、このカップルが神の前にこの罪を犯したのです。彼らはこの誘惑の中で、結果的にこの木の実を取って食べ神に逆らうのですが、彼らの選択は何を意味しているのか？説明します。

彼らがその選択をしたということは、彼らは次のことを心の中で決めたのでしょうか。それは、神よりもサタンに従うことです。なぜなら、彼らは神が言われたことに従おうとしないで、サタンの言うことに従っているからです。二つ目に言えることは、神を愛することよりもサタンを愛することを選択することです。神を愛しているなら神に従うはずですが、でも、彼らは神よりもサタンの声に従おうとしているのです。そして、神との交わりよりもサタンとの交わりを選択します。それが証拠に、彼らが罪を犯した後、神は彼らを呼んでおられます。3:8「そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間身を隠した。」と、神が呼んでおられるのに、罪人はその神の前に出て行こうとしないのです。今、私たちの周りに溢れているイエス・キリストを信じていない人と同じ反応です。主が救いを与えようと招いておられるのに、みな、神から遠ざかって神から隠れようとするのです。罪の為すわざです。

これまで神と親しい交わりをもっていた彼らが、その交わりよりもサタンとの交わりを選択するのです。また、もっと言うなら、神が与えてくださる幸せよりもサタンの幸せを選択したのです。なぜなら、彼らは神とともにいたとき本当の幸せを経験しているはずですが、彼らは思ったのかもしれませんが、神よりもこの語っている蛇が私たちが持っていないものを与えてくれるに違いないと。そのような誘惑を私たちが経験するではありませんか！！世の中が神よりももっとすばらしいものを与えてくれるかのような…。彼らは神よりもサタンが本当の幸せをもたらすと信じるのです。また、神よりもサタンが本当の満足をもたらすと信じるのです。そして、神のことばを信じるよりもサタンのことばを信じるのです。なぜなら、彼らは神のことばを疑ったからです。

こうして、彼らが罪を犯したときにだれが一番喜んだでしょう？間違いなく、サタンです。自分の野望が達成したからです。彼はそこで喜びの声を上げています。なぜなら、人類の祖先を、まさにそのルーツを自分の虜にしたからです。彼らから生まれて来るすべての子どもたち、すべての人間はみな彼の虜です。みな、サタンを愛しサタンに仕えサタンを崇拜する者として生まれて来るのです。間違いなく、この二人が罪を犯したときに、サタンはそのことを大いに喜んだでしょう。彼の野望は神になることでした。創造主なる神に造られている被造物でありながら、彼は神になろうとするのです。神だけが受けるべき称賛を礼拝を彼は受けようとするのです。そして、彼の野望はついに完成した、成功したと思います。なぜなら、人類の最初のカップルを「神を憎む者」にしたからです。神ではなくサタンを愛する者にしたのです。神に従う者ではなくサタンに従う者にしたのです。サタンはどんなにこの結果を喜んだことでしょうか。

そのときに、この神のメッセージが届くのです。3:15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。」と。そして、この後、16, 17, 18節には、アダムとエバに対する、彼らの罪に対する神からの厳

しい罪の結果が記されています。16-20節「:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」:17 また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」

妊婦には出産の苦しみが増すこと、男性は額に汗して働かなければ食を得ることが出来ないと、こうして罪の結果が告げられるのです。その前に、このメッセージがサタンに対して告げられているのです。神がここで言われたこの15節のメッセージは「神ご自身の勝利のメッセージ」です。

### ☆神の勝利のメッセージとしての3:15

初めに、神はサタンに「勝利を得る約束」を与えています。そして、その上で後半は「勝利を得る方法」が記されています。この勝ち誇っているサタンに対して神ご自身が勝利を約束し、そして、どのようにしてその勝利を得るのかを告げるのです。3:15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

#### A. 勝利を得る約束

ここで中心的なことは「敵意」です。これは「憎しみ、憎悪」という意味です。しかも、見ていただきたいのは、だれがこの15節の命令を与えているのか？です。14節に「神である【主】は蛇に仰せられた。」とあり、15節には「わたしは、」と始まります。神ご自身が語っておられるのです。つまり、神ご自身が次のようなことを為すということです。

#### ◎主なる神のみわざ

「主が為されること」です。すなわち、「わたしは、……敵意を置く。」です。だれとだれの間に敵意を置くのか？二つのグループがあることに気付かれるでしょう。一つ目は「おまえと女」で、二つ目は「おまえの子孫と女の子孫」です。

##### 1. 蛇と女との間に敵意を置く

「おまえと女との間に」と、「おまえ」とは蛇を使って誘惑をしたサタンのことです。「女」とは、ここには定冠詞が付いています。だれかわからないが女性…というわけではありません。エバです。ということは、私たちは考えなければなりません。神を愛する者としてアダムとエバがいました。ところが、彼らが罪を犯すことによって、神を愛するのではなく、サタンを愛し、神を憎む者となってしまったこの二人に対して、神の約束は「この二人が再び神を愛する者になる」という約束です。つまり、彼らに対する救いの約束です。エバがアダムが救いに与るということを主はここで言われたのです。

サタンは思ったのです。この二人が神に対して敵意をもっている、神を愛するのではなく自分を愛する者になった、神に従うのではなく私に従う者になった、これで私はすべての被造物から崇拝を受けるのだと。神がそのサタンに告げられたことは「とんでもない！！あなたが勝ったと思っているけれど、残念ながら、おまえは敗北者だ！！なぜなら、このエバもアダムもわたしを愛する者へとわたしが変える。そして、これまでと同じように、おまえに対して敵意を抱く者になるのだ。」です。

神は最初にすごい約束を与えました。彼らの救いです。

##### 2. 蛇の子孫と女の子孫との間に敵意を置く

二つ目のグループです。「蛇の子孫」とは蛇から生まれる小さな蛇ではありません。これは「サタンと彼を信じる者たち」のことです。創造主なる神を憎み逆らい続けているすべての人たち、つまり、未信の人たちのことです。「女の子孫」とは「信者」のことです。ですから、これまでの歴史を振り返ると、神を信じる者とそうでない者たちの間には様々な争いがありました。そこに敵意があります。もちろん、クリスチャンたちがそうでない人たちを憎むものではありません。でも、憎まれています。その最たる方はイエスです。主イエス・キリストがこの地上にお見えになったとき、すべての人が歓迎したか？ほとんどの人たちは彼を憎み彼に敵意を抱きました。私たちもこの地上にいて、神の前に正しいことをしようとするときみな歓迎するかというと、そうではありません。

ですから、この「主の約束」は何を言っているのか？イエスを信じる者たちとイエスを拒みサタンを信じ続ける者たちとの間には、このような敵意が存在するというのです。

#### B. 勝利を得る方法

どのようにして勝利を得るのか？主はその方法をここで語っておられます。

##### 1. 勝利を勝ち取るお方

1) 彼 : 「彼は、」と続きます。「彼は」、「彼女」とも「彼女たち」「彼ら」でもありません。つまり、この勝利の宣言はひとりの男性によって実現するというのを神はここで言われたのです。

2) 救世主 : また、この勝利は救世主によって為されるということを言われたのです。この後で見えていきますが、このひとりの男性、救世主は「サタンの頭を踏み砕く」、「おまえの頭を踏み砕き、」と言います。ガラテヤ人への手紙4:4にパウロが今私たちが学んでいることをこのように教えています。

「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。」、非常に大切なことをパウロは教えています。先ず、「定めの時が来た」とは「神のご計画に沿ってすべてのことが為されている」ということです。

そして、神のご計画に基づいて救い主、救世主がこの世が送られたということ。「神はご自分の御子を遣わし、」と。だから、イエス・キリストが来られたというのは偶然のことではない、すべて、神のご計画に基づいているのです。その後、「この方を、女から生まれた者、」と、この方は完全に人間だということ。「また律法の下にある者となさいました。」、つまり、私たち人間と同じだということ言うのです。もっと言うなら、律法に対して責任がある者、神の律法を守る責任があるということ。私たち人間はみな神の律法に対して責任を負っているからです。どういうことか？初めに見たように、神によって造られた私たちは、この神が私たちに命じることを行なうという責任をもって生まれて来ているのです。私たちを造られた神は、私たちに対して「このように生きていきなさい」ということを命じておられます。その律法に対して私たちはことごとく逆らっているのです。「聖くあれ」と言われる神に対して聖くない、「神を愛する者になれ」と言われるのに神を愛していない、「神に従え」と言われるのに従っていない。私たちは神の律法にことごとく違反しているのです。だから、さばきがあるのです。

この約束の救世主は人としてこの世にお生まれになり、私たちと同じように、律法に対して責任をもっている。ただ、この救世主と私たちが違うことは、この方はすべての点で神の律法を満たされたのです。すべての点で完璧に神の命令に従ったのです。それが証拠に、主イエス・キリストを裁いたピラトは「この人には悪いところはありません。むち打った上で釈放します。」と言っています。ルカ23:4「ピラトは祭司長たちや群衆に。「この人には何の罪も見つからない」と言った。」、23:14-16「こう言った。「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来たけれども、私があなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えているような罪は別に何も見つかりません。:15 ヘロデとても同じです。彼は私たちにこの人を送り返しました。見なさい。この人は、死罪に当たることは、何一つしていません。:16 だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」

主イエス・キリストのうちに罪がないから、彼は私たちの身代わりになれるのです。身代わりとなって十字架の上で死ぬことができるのです。完全な身代わりとなるためには、私たちのすべての罪を負って私たちに代わってさばきを受けていただくためには、その方に罪があってはならないのです。主イエス・キリストも私たちと同じように律法の下にある者として生まれられ、そして、主イエス・キリストはご自分の完全な生涯をもって、ご自分だけが私たちの身代わりになることができることを明らかにし、そして、自ら進んで十字架で死なれたのです。

この方によって神の勝利が約束され、そして、神ご自身が勝利を得られるのです。

## 2. 勝ち取る勝利

次に「おまえの頭を踏み砕き、」とあります。これは「死」を意味します。頭を砕かれて生きる生き物はいません。砕かれたら死にます。だから、サタンの「頭を踏み砕き、」とはサタンの完全な敗北を表わしているのです。ひとりの男性、救世主がサタンに対して完全な勝利を得る。そして、サタンに完全な敗北をもたせると、そのことを約束したのです。イエス・キリストはまさにそのことを為さったのです。十字架に架かりあなたのすべての罪を負ってそこで死んでくださり、その後、三日目にその死からよみがえって来ることによって、主イエス・キリストはサタンが支配していた「死」を敢然と打ち破ってくださったのです。

ですから、神はここで最初のカップルであったアダムとエバに対して、救いの約束を与え、勝ち誇っていたサタンに「おまえは勝利者ではなくて敗北者だ。本当の勝利者はわたしだ。」と言われて、すばらしい約束と、その約束をどのように成就するかを話されたのです。だから、イエス・キリストがこの世に来られた時に、サタンは非常に巧妙に働いて、その救い主を殺そうとします。ヘロデに命じて二歳以下の男の子を殺そうとします。サタンは救世主を殺して自分が神として君臨し続けようとするのです。でも、私たちが分かっているように、神はすべてをご自身の計画のままに為され、そして、完全な勝利をあのイエス・キリストの十字架によって得られたのです。

だから、私たちクリスチャンも言えるのです。かつては希望がありませんでした。罪人であり、罪に対しては全く無力であり、どうすることもできなかつた。しかし、イエス・キリストが十字架で私の身代わりとなって死んでくださり、その死から三日後によみがえって来ることによって、すばらしい希望が備えられたのです。罪に汚れた私もこのイエス・キリストによって生まれ変わり、イエス・キリスト

とともによみがえり、新しい人生を歩み、そして、この方とともに永遠を過ごす。

まさに、神は私たち信仰者とサタンの間に敵意を置いてくださったのです。

### 3. サタンの抵抗

サタンができることはわずかです。「おまえは、彼のかかとかみつく。」と。彼ができたことは、この救世主に痛みを与えることだけでした。確かに、あの十字架においてイエスは苦しみをお受けになりました。しかし、その痛みは永遠に続くものではありませんでした。十字架に架けられてから約6時間後には、その痛みから主は解放されています。そして、約束通りその死からよみがえって来られた。そして、信じるすべての者に完全で永遠の救いを備えられたのです。

#### ☆サタンを打ち破る

主イエス・キリストは勝利されたのです。この約束は成就したのです。サタンがどんなに策を尽くしても、主は敢然と勝利なさったのです。そして、今見て来たように、サタンはいろいろなことをもってクリスチャンであるあなたに働いています。一生懸命、あなたを弱らせてあなたの信仰が成長しないようにと様々な策を講じています。でも、いつまでもその働きが続くわけではありません。多くの未信者を惑わせて、彼らが救いに与らないようにと働いていますが、いつまでも続きません。働きは終わるのです。

パウロがこのように言っています。ローマ16：20「平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。」と。ハレルヤ！！です。サタンは完全に打ち砕かれるのです。そして、私たちは彼が永遠の地獄に行くことを知っています。かつてはサタンの子供もでした。サタンを愛しサタンに従っていた者が主の恵みによってそこから救い出され、そして、今度はサタンを憎む者として生まれ変わり、私たちはサタンと運命をともにするのではなく、神と運命をともにし、神の祝福の中に招かれ祝福のうちを歩み続けていくのです。そのすべては「イエス・キリストの贖い」によって、神が私たちにくくださったのです。だから、私たちはこのメッセージを語るのです。このすばらしい救いが備えられているのです。このすばらしい救いを主は与えてくださるのです。このメッセージを伝えるために私たちは救われているのです。

勝利者とされたあなたは、勝利の主を語るというその大きな大切な使命をいただいています。しっかりと語って行きましょう。こんなすばらしい神がおられ、こんなすばらしい救いがあるのです。そして、その救いのすばらしさを実際に体験したのはあなたであり私です。人から聞いたことを伝えるのではありません。神が私のうちに成してくださったみわざを伝えるのです。

どうぞ、証人として、主のこのすばらしい降誕と何よりもすばらしいあの十字架と復活、救いを語る者として、この一週間も出て行ってください。そして、主の助けをいただきながら、人類に与えられた唯一の救いを語り続けてください。すばらしい主によって私たちは永遠の勝利者とされたのです。

#### 《考えましょう》

1. サタンの野望について説明してください。
2. 神の約束された勝利を説明してください。
3. 神はその勝利をどのようにして達成なさるのでしょう？
4. 主イエスはどのようにして信じるすべての罪人の罪を赦すことがお出来になるのでしょうか？